

## ○平成25年度外部評価委員会の評価結果

平成25年9月10日に外部評価委員会を開催し、委員5名全員が出席して、事前評価1題、中間評価1題及び事後評価1題について評価がなされ、その評価結果は下記のとおりです。

なお、評価方法は5段階評価で

- 5：非常に高く評価できる。
- 4：高く評価できる。
- 3：評価できる。
- 2：あまり評価できない。
- 1：評価できない。

としています。また、総合評価が2点以下の課題は、原則として廃止又は中止することとしています。

### 1 事前評価

調査研究課題：マダニのSFTSウイルス保有状況等に関する調査研究  
(実施期間：平成26年度～28年度)

評価事項	委員					総合評価 (平均値)
	A	B	C	D	E	
① 調査研究目的の妥当性・合理性	4	4	4	4	5	4.2
② 調査研究内容及び調査研究体制の妥当性・合理性	4	3	3	3	5	3.6
③ 環境及び保健衛生行政施策に対する反映・寄与の程度	5	4	4	3	5	4.2
④ 学術的意義又は技術開発に対する寄与・期待の程度	5	4	4	4	4	4.2
⑤ 県民ニーズに対する対応状況	5	4	4	4	5	4.4
<b>総合評価</b>	5	4	4	4	5	4.4
<b>(主な意見)</b>						
マダニのSFTSウイルス感染症は、治療法もまだ確立していない死亡例もある感染症であり、研究が急がれる。特にSFTSウイルスを保有するマダニの生息状況や媒介する動物の情報などを解明し住民への情報提供ができるよう期待するとの意見がありました。また、マダニのSFTSウイルス遺伝子の検出法には、問題点もあるので、国や他県の研究機関との情報交換をしながら進めていく必要があるとの意見もありました。						

### 2 中間評価

調査研究課題：

鹿児島県におけるつつが虫病及び日本紅斑熱患者の病原体検出に関する調査研究  
—患者及び宿主からの分離と感染地域リスクマップの作成—  
(実施期間：平成23年度～25年度)

評価事項	委員					総合評価 (平均値)
	A	B	C	D	E	
① 調査研究の進捗状況	4	5	4	4	5	4.4
② 調査研究内容及び調査研究体制の変更の必要性	4	4	3	3	4	3.6
③ 調査研究継続の妥当性	4	5	4	4	5	4.4
<b>総合評価</b>	4	4	4	4	5	4.2
<b>(主な意見)</b>						
患者の痂皮からの探索検査が有用であることを確立した事は、臨床的有用性が高く、診断まで苦慮している症例もあり、早期治療への導入及び、感染への予防策などが期待されるとの意見がありました。また、感染リスクマップの更新や県民への情報提供も重要であるとの意見もありました。						

### 3 事後評価

調査研究課題：航空機騒音の評価手法に関する調査研究

(実施期間：平成22年度～24年度)

評価事項	委員					総合評価 (平均値)
	A	B	C	D	E	
① 調査研究目的の達成度	5	3	4	4	4	4.0
② 環境及び保健衛生行政施策に対する反映・寄与の程度	5	3	3	4	5	4.0
③ 学術的意義又は技術開発に対する寄与の程度	4	5	4	5	4	4.4
④ 県民のニーズに対する対応及び波及効果	4	3	3	3	4	3.4
⑤ 調査研究成果の取りまとめ及び公表の状況	4	3	4	5	4	4.0
⑥ 今後の発展性	5	5	3	4	4	4.2
<b>総合評価</b>	5	4	4	4	4	4.2
<b>(主な意見)</b> 従来法に比べて実際の暴露量にあたる評価が得られたことは評価できる。また、国のマニュアル作成に貢献した点も評価できるとの意見がありました。また、空港周辺に居住する人々への影響に合わせた騒音の継続した測定も手掛けることを望むとの意見もありました。						

#### ○ 評価結果に対する対応

今後は、平成25年8月5日開催した「内部評価委員会」の評価結果も含め、下記のとおり評価結果及び委員の御意見等を反映させた調査実施計画の検討・実施及び調査結果を県民のニーズへ反映できるよう対応を検討することとしています。

- ・ 事前評価を受けた1課題については、SFTSウイルス遺伝子の検出法を確立するとともに、マダニの生息状況等を解明し、その結果を住民へ情報提供できるよう調査研究を実施していくこととしています。
- ・ 中間評価を受けた1課題については、病原体検出率を高めるため調査研究を実施していくとともに、感染リスクマップの作成などにより、県民等へのわかりやすい情報提供法を検討していきます。
- ・ 事後評価を受けた1課題については、調査結果を元に航空機騒音実態のより正確な把握及び作業の効率化を図るとともに、空港周辺住民のニーズに対応できるよう調査方法を再検討しつつ、測定を継続していきます。